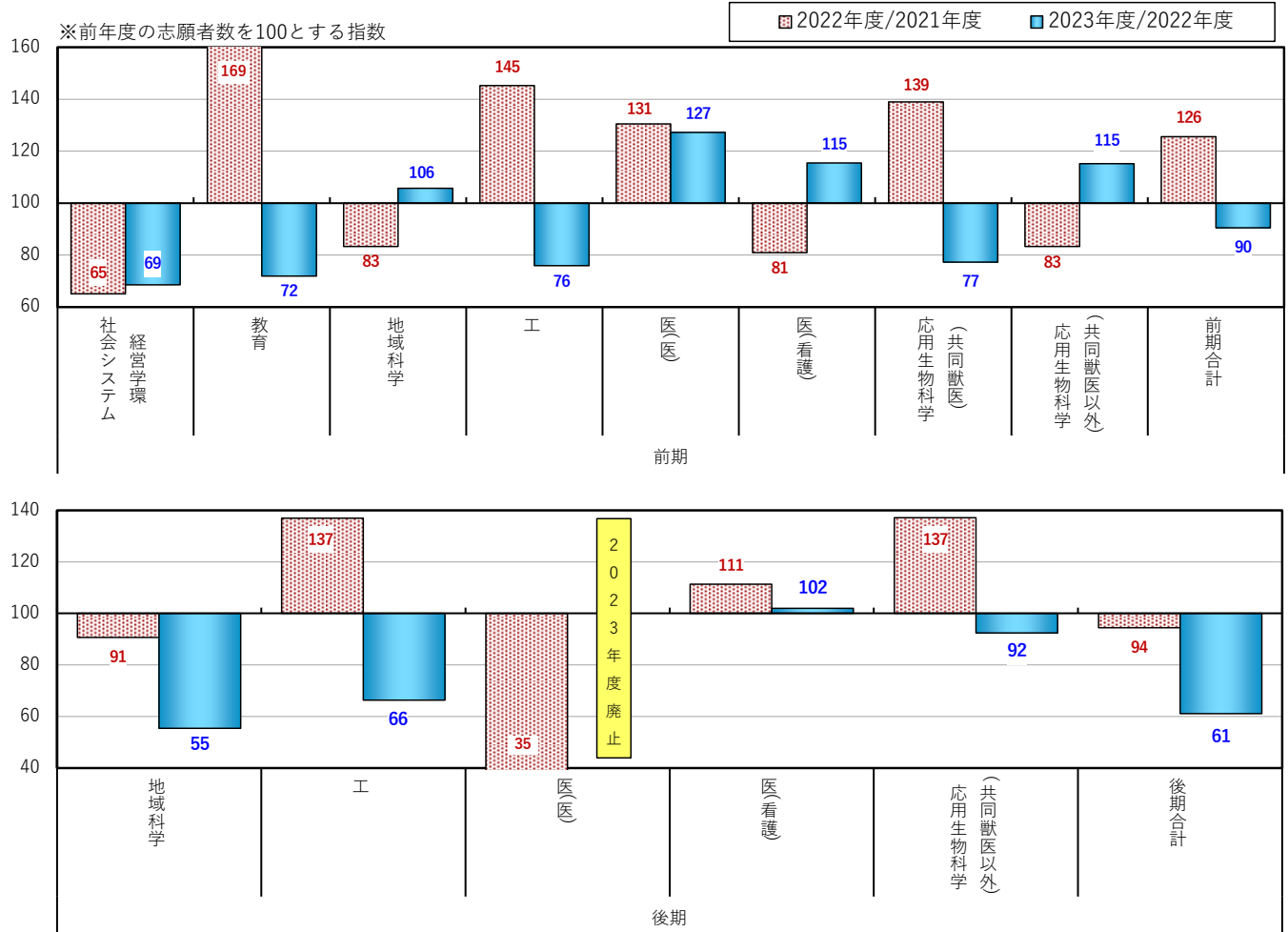


岐阜大：前期は減少、後期は大幅減少

前期：-259人 後期：-1,202人



主な入試変更点

選抜方法：医(医)…後期募集停止
 募集人員：医(医)…<前>45人→55人、<後>10人→0人
 第1段階選抜基準変更：医(医)<前>…約15倍(通過予定人数：約675人)→約9倍(通過予定人数：約495人)
 個別試験：教育(学校教育教員養成/美術教育)<前>…面+実+(国or数or外)→面+実 ※教科試験除外
 応用生物科学(応用生命科学)<前>、(生産環境科学)<前>…数+理 ※数の選択範囲変更
 ※数：数I・数A・数II・数B
 →※数は下記2つのパターンから1つを選択
 数I：数I・数A・数II・数B
 数ロ：数I・数A・数II・数B・数III

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度大幅増加の反動は小さく、259人(90)の減少。学部(医、応用生物科学は学科)・学環別では、医(医)(127)、医(看護)(115)、応用生物科学(共同獣医以外)(115)はいずれも大幅増加。一方で、社会システム経営学環(69)、教育(72)、工(76)、応用生物科学(共同獣医)(77)はいずれも大幅減少。後期は医(医)の募集停止の影響もあり1,202人(61)の大幅減少で5年連続減少。医(医)を除くと、前年度大幅増加の反動で(70)の大幅減少。

<前期日程>

- 社会システム経営学環(69)は、新設3年目だが、2021年度新設の翌年度から2年連続大幅減少で、志願者数は2021年度の半減以下。
- 教育(72)は、前年度激増の反動で大幅減少。募集単位13募集単位中9募集単位が減少。特に、(学校教育教員養成/特別支援教育)(15)、(学校教育教員養成/美術教育)(36)はいずれも前年度激増の反動で激減。(学校教育教員養成/理科教育)(49)、(学校教育教員養成/学校教育一教職基礎)(57)、(学校教育教員養成/英語教育)(65)、(学校教育教員養成/社会科教育)(73)、(学校教育教員養成/国語教育)(78)はいずれも大幅減少。一方で、(学校教育教員養成/技術教育)(433)は激増、(学校教育教員養成/音楽教育)(140)、(学校教育教員養成/家政教育)(125)、(学校教育教員養成/保健体育)(125)はいずれも大幅増加。各募集単位の募集人員が少ないので、極端な増減が目立った。
- 地域科学(106)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。志願倍率は2年ぶりに3倍を上回った。
- 工(76)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科・コース別では、8学科・コース中6学科・コースが減少。特に、(電気電子・情報工/応用物理)(41)、(機械工/機械)(49)、(社会基盤工)(58)はいずれも前年度激増の反動で大幅減少。(電気電子・情報工/電気電子)(71)は大幅減少で2年連続減少。(電気電子・情報工/情報)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(機械工/知能機械)(155)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。

- 医(医)(127)**は、2年連続大幅増加。ただし、後期募集停止に伴う前期募集人員の増加があったため志願倍率は10.4倍→10.8倍とほぼ変化なし。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は83.5%だった。
- 医(看護)(115)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 応用生物科学(共同獣医)(77)**は、2年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は5.1倍→3.9倍にダウン。
- 応用生物科学(共同獣医以外)(115)**は、大幅増加で2019年度以降前年度の反動による大幅増減が継続。課程別では、(応用生命科学)(147)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(生産環境科学)(89)は2年連続減少。

<後期日程>

- 地域科学(55)**は、大幅減少で2年連続減少。志願者数は9年ぶりに200人を下回った。
- 工(66)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科・コース別では、8学科・コース中7学科・コースが減少で前年度とは逆の増減。(電気電子・情報工/電気電子)(43)、(化学・生命工/生命化学)(51)はいずれも前年度激増の反動で大幅減少、(電気・電子情報工/応用物理)(57)、(化学・生命工/物質化学)(66)、(機械工/機械)(69)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。(社会基盤工)(59)は2年連続大幅増加の反動で減少。一方で、(機械工/知能機械)(117)は2年連続減少の反動で大幅増加。
- 医(看護)(102)**は、微増だが4年連続大幅増加。志願倍率は2年連続で10倍を上回った。
- 応用生物科学(共同獣医以外)(92)**は、2年連続大幅増加の反動で減少。課程別では、(生産環境科学)(79)は3年連続増加の反動で大幅減少。一方で、(応用生命科学)(103)は前年度大幅増加に引き続きやや増加で3年連続増加。